

# 登山月報



シニオルチュー (6,887 m)



**8月11日** みんなで山を考えよう!  
祝「山の日」  
全国「山の日」協議会  
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

第15回ボルダリングジャパンカップ .....	2
令和元年度積雪期登山基礎講習会報告 .....	4
第136回 Mountain World .....	5
<b>新連載</b> 『日山協と私』 .....	6
UIAA MedCom meeting 報告 .....	7
2019年度レスキュー講習会(積雪期) .....	9
鳥取県大山 令和元年度 .....	10
冰雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 .....	12

# 第15回ボルダリングジャパンカップ

実行委員長 村岡正己

大会名：スポーツライミング

第15回ボルダリングジャパンカップ(BJC2020)

会場：駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

日程：2月8日(土)～9日(日)

今年はOlympic year。Olympic選手選考の大会として、今回のBJC(駒沢)を皮切りに、2月22日SJC(昭島)、3月7・8日LJC(加須)5月16・17日CJC(盛岡)と続く。今年より参加資格を優先出場権保持者とジャパンツアー通過者とした。男子60人、女子47人がエントリー。その結果、ジャパンツアー通過者が決勝まで優先保持者(強豪)を脅かす存在となり非常に面白い展開があった。特にびっくりしたのが、女子予選で松藤藍夢(16歳)が強豪を抑え1位通過したこと。男子でも準決勝で波乱が起き、杉本怜、藤井快、石松大晟がここで姿を消した。

## 【女子決勝】

伊藤ふたば、野口啓代、野中生萌、松藤藍夢、森秋彩、谷井菜月が決勝進出。決勝になるとさすがに強豪が実力を発揮。第1課題を森、野口、伊藤が一撃する。



第2課題も野口が一撃完登し一位に躍り出る。

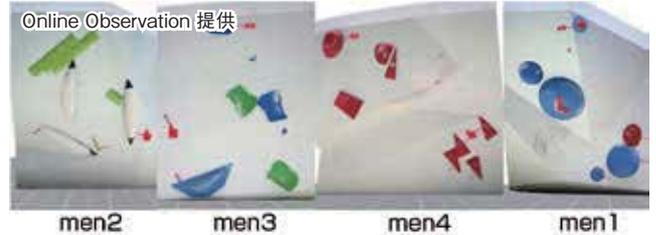
このまま野口が独走かと思われたが、第3課題で歴史が動く。第3課題は、スラブに半月状のハリボテを縦に設置した課題。右からトラバース気味に跳ねるように、2本の縦のハリボテを止めに行くコンビネーション的なムーブ。各選手が失敗する中、伊藤が難なくこなし2撃完登。これで野口、伊藤が2完で並ぶ。そして最終の第4課題。スタートは巨大なハリボテの先端めがけランジするムーブ。野中、野口が完登。最後に伊藤が2撃完登。ゾーンの差で大逆転の優勝を決めた。



女子第3課題 伊藤ふたば

## 【男子決勝】

川又玲瑛、井上祐二、原田海、榑崎智亜、小西桂、佐野大輝の6名が進出。第1課題は、ラウンジ課題。榑崎は一撃。井上、川又、小西がそれに続く。なんと優勝の原田はこの課題を失敗。



第2課題は、半月状のハリボテが縦に並ぶ下部を通過できず敗退する選手が多かった。それを原田一人が一撃完登。この成功が優勝に導く。

第3課題はスラブ系。上位選手でもゾーン獲得が精いっぱい。

第4課題は、ハリボテの下部にあるホールドへのランジが核心。榑崎、原田が完登。トータルでゾーンの差1で優勝を決めた。

順位	姓名	総合 完登/ゾーン	W1	W2	W3	W4	準決勝 順位
1	伊藤ふたば	3T4Z69	T1 Z1	- Z3	T2 Z2	T3 Z3	1
2	野口 啓代	3T3Z44	T1 Z1	T1 Z1	- -	T2 Z2	2
3	野中 生萌	2T3Z33	- Z1	T2 Z1	- -	T1 Z1	3
4	森 秋彩	2T2Z33	T1 Z1	T2 Z2	- -	- -	5
5	谷井 菜月	0T2Z-3	- Z1	- Z2	- -	- -	6
6	松藤 藍夢	0T2Z-6	- Z5	- Z1	- -	- -	4

順位	姓名	総合 完登/ゾーン	M1	M2	M3	M4	準決勝 順位
1	原田 海	2T4Z56	- Z2	T1 Z1	- Z2	T4 Z1	3
2	榑崎 智亜	2T3Z43	T1 Z1	- -	- Z1	T3 Z1	4
3	井上 祐二	1T3Z69	T6 Z6	- -	- Z2	- Z1	2
4	川又 玲瑛	1T2Z25	T2 Z2	- Z3	- -	- -	1
5	小西 桂	1T1Z77	T7 Z7	- -	- -	- -	5
6	佐野 大輝	0T1Z-6	- Z6	- -	- -	- -	6

## 【運営・マーケティング】

### ▶観戦

2日間の観戦者は2,660人となった。昨年の2,465人を200人ほど超えた。予選のチケットの伸びが全体

BJC 2020 (人)

	選手 男子	選手 女子	観客	VIP	視察	メディア	運営 ツアー	観戦 合計
2/8	60	47	768	38	10	64	3	990
2/9	60	47	1,369	54	30	110	0	1,670
2日合計			2,137	92	40	174	3	2,660

を押し上げた。(参考、予選観客数13回427、14回530、15回768)。

### ▶メディア

上限を設けているが、決勝の日は前年を超え110人のメディアが取材に来場。BJCが始まった頃は、ライツ以外は取材エリアを壁の正面に制限してきたが、昨年あたりから露出を高めるため取材エリアを会場のいろいろな場所に展開。もちろんライツの優先は保持しつつだが、その甲斐あってかクリッピングの内容をみるとメディア露出の成果が出ていると感じる。

新聞：34件(2月8日-11日)

Web：75件(2月7日-12日)

テレビ：13番組33分(2月7日-10日)

### ▶競技運営

財政課題に基づきコストダウンに取り組む。壁のサイズの縮小(15%)、中央大型スクリーンの取止め(会場スクリーンのみ)、宿泊管理のリインストレーションなどいろいろなVEに取り組み組んだ。逆に、公園管理より、昨年まで使えたクレーンの使用ができなくなり設置工事を深夜まで実施。厳しい側面もでてきた。

### ▶観戦体験向上

昨年同様、壁へのマッピングによる選手パフォーマンスの情報投影、オンラインオブザベーションによるルートが見える化を実施。会場の観戦体験の向上に取り組んだ。

- プロジェクションマッピング (SonyMusic 協力)



- オンラインオブザベーション (アーケ株協力)

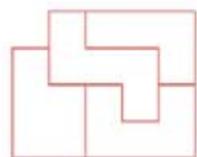


課題のホールドを3Dビジュアル化。各課題が始まる前にスクリーンで紹介。いろいろな角度からの画像でホールド全体の形状までよく見える。

### ブランディング

今回は、ジャパンカップ全体のブランド形成としてビジュアル要素の一つであるロゴに力を入れた。

“シンボル”となるロゴを作成。よりファンを増やすために広告やプロモーションに使用し、イメージ戦略へ展開。今回は、これらを各アメニティーに使用し、物販として世界選手権なみに反応があった。



全体ロゴ



BJCロゴ

購入状況：2日で565件の販売、来場者の20%が購入

### ▶オブザーバーツアー

今回初めて採用したプログラム。大会運営(裏方)の見学と大会観戦を合わせたツアーを有料で企画。5人の申し込みがあったが、体調不良とのことで2人欠席。3人に実施、反応は良好、来年も継続したい。

### ▶危機管理

昨年末から中国で取り沙汰されている新型コロナウイルスが日本でも12例目が報告され1月31日にWHOより“国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態”が該当すると発表があった。BJCとしても、感染対策として、手の消毒、咳エチケットの協力(選手、スタッフ、観戦者)発信、会場へのアルコール洗浄剤の設置(出入口、各諸室)を行った。\*毎日ニュースで報道されていることもあり、観戦者のほとんどがマスクを着用されていた。

### 【総括】

オリンピックを控え、昨年の世界選手権をはじめ競技に関わる情報のクローズ性(ルートに関する)が要求され運営面では観客に負担(一時退出)を与える部分もありましたが、もう一人のオリンピック代表選手選考の一つの大会として大いに



盛り上がり合わせて役目は果たせたと感じています。大会運営を支えていただいた協賛各社、スタッフの皆様、応援していただいた観客の皆様、誠にありがとうございました。大会の開催にあたりご理解とご協力をいただいたすべての皆さまに、厚くお礼申し上げます。

#### \*デリゲイトコメント(羽鎌田)

個々のスタッフの質が非常に高く、大会前、大会中、大会後すべてにおいて効率的かつ適切な対応が見受けられた。改善点としてアイソ/コールゾーンからスコアボード/ビデオボードが見えてしまうため、応急処置はしたが不十分。

準決勝と決勝の間の転換時に、座席の確保のために荷物を置いていく観客がいた。こちらはアナウンス回数を増やす等で改善していきたい。また、入場待機時に観客が非常に寒い中待つこととなってしまう、SNS等で複数改善を求める意見があった。こちらは仮設テントと簡易な暖房の設置を検討してもよいのではな

いだろうか。

#### \*サービスマネージャーコメント(栗田)

今回は、大会直前に発生した新型コロナウイルス対応に不安なところもありましたが、個々の自己管理のおかげで、大会期間中に体調を崩される方が出なかったことに感謝しております。また、スタッフの多くが、昨年の世界選手権大会を経験しているためか、これまで以上に安定感のある動きをして下さり、非常に心強く感じておりました。特に、撤収時の清掃からマット回収までが、1時間ほどで終了したことには驚くばかりでした！一方、一人への負担を軽減するために、新しい人材の確保も不可欠と考え、少しずつ、メンバーの入れ替えも行い始めていますが、こちらはまだ試行錯誤の段階となります。



## 令和元年度積雪期登山基礎講習会報告

令和2年2月7日(金)～9日(日)  
国立登山研修所

この講習会は2017年の那須雪崩事故を受けて、昨年より始まった積雪期登山の基礎を学ぶ講習会です。

参加者の多くが、学校関係者や遭難対策・山岳関係に従事する指導的立場の方々に、定員30名のところ34名の参加で行われましたが、お断りした方も多く積雪期登山基礎講習の必要性を感じている方の多い事も感じられました。

基本コンセプトは「雪に親しむ、で、雪山を歩く・雪山で生活する・雪を知る・雪山での危急時対策などを学び、計画立案から準備(P)そして行動(D)・評価(C)・改善(A)までのPDCAサイクルに基づき行われました。

今シーズンは雪不足でスキー場なども頭を抱えていたところですが、2月5日から6日にかけて今シーズン一番の寒気が南下し約80cmの降雪があり、初日机上講習の「冬山の気象、積雪と雪崩、には良い見本となる条件が揃い、実技山行に至っては8日から9日にかけては前回以上の降雪があり、約半分近く埋まったテントの掘り出しなども経験し、目標地点の大山には届きませんでした。胸までのラッセルやルートの選定、チーム力と協力体制の重要性なども体験し実感できた内容の濃い実技講習でした。



そして、講師陣からは雪の弱点や利点を知ること、高所環境・悪天・地形・雪崩などの「見える危険」や、登山者自身側に起因する技術・知識・体力・リーダーシップなどの「見えにくい危険」を、現役の一流講師陣より指導を受けた3日間でした。

J S P O公認スポーツ指導者制度の育成基本方針に「指導者は常に学び成長し続けなくてはならない」とあります。

今回の受講生も今後いろいろな立場で活躍されることと思いますが、講習会や研修会にどんどん参加し、常に新しい技術や新しい考え方を学び続ける事を切に願います。(記 指導委員会 本郷利夫)



## 第136回 Mountain World

### ウルブコの単独攻撃失敗、彼の今後はどうなる？

池田常道

前号にお伝えしたように、この冬の8000m峰挑戦はすべて失敗に終わった。

冬季未踏のK2(8611m)を狙ったネパール公募隊(ミンマ・ギャルジェ隊長)は急造チームの弱みを露呈した。南東稜下部に若干ルート工作しただけで2月2日、BC入りしてから2週間足らずで断念した。

ガッシャブルムI峰(8080m)とII峰(8034m)を目指したイタリアのシモーネ・モーロとタマラ・ルンガーは、アプローチの南ガッシャブルム氷河で雪崩に遭ったり、モーロが致命的になりかねなかったクレバス転落を喫したりして断念。1月19日に早々とヘリで下山してしまった。

デニス・ウルブコはドン・ボーウィ(カナダ)と組み、フィンランド女性ロッタ・ヒンツァを加えた3人でブロード・ピーク(8051m)に向かった。7500mまで固定ロープを延ばした後、ボーウィと行なった頂上攻撃では、高山病に倒れた相棒をBCまでエスコートしたためチャンスを逸した。ボーウィとヒンツァが2月8日にヘリで去った後、単独攻撃を企図してBCに踏みとどまったが、22日に予報されていた好天の訪れを待たず、16日午前6時半、攻撃に踏み切った。

一気にC3に入り、翌日登頂するつもりだった。しかし、初日のクーロワールで雪崩を受けて100mほど流され、クレバスの縁まで50mのところまで止まった。「ジャケットの雪を払って前進した」と彼はいう。この日午後3時半には7000mに達してC3を設営した。予定どおり翌朝3時にC3を出たが、固定ロープが切れて15m転落。「前進を阻むほどのアクシデントではなかった」彼は、別のロープにユマールを噛ませて続行した。ところが、7400m地点に達したころ風が強まって時速60kmを超え、さすがのウルブコも「もう一度ミスすればゲームは終わる」と思わざるを得ないところまで追い込まれた。さっさと踵を返してBCに帰ったのは、まだ午前10時だった。

ウルブコの冬季8000m峰挑戦は、これが4回目にあたる。まず2003年にK2北稜の7680mに到達。09年にシモーネ・モーロとマカルー(8485m)、11年にモーロ、コリー・リチャーズ(米)とガッシャブルムII峰と二つ

の冬季初登頂をモノにした。18年にはポーランド＝カザフ隊で南南東リブからK2に挑んだ。ナンガ・パルバットの遭難救助にかかわり、K2に復帰してからは、隊長の意向に反して隊の戦法を批判、単独攻撃を敢行して7600mまで登ったところで引き返した。アレハンドロ・チコンと中国・新疆側から北面を登ろうとしたこともあったが、許可されなかった。

ウルブコは今回、K2の許可も取得していた。ブロード・ピークの後に狙う心積もりだったのかも知れない。二つやるなんて無理だと語っていたが、内心期するところもあったのではないだろうか。彼は、20年に及んだ8000m登山を「冬季K2で締めくくりたい」とコメントしていたし、それができたら「トレッキングとロック・クライミングに専念する」とも語っていた。

問題は、機会があるかどうかだ。マカルーのように、気心も実力も知れたパートナーと組むならともかく、大登山隊の一員としては、ロシア、ポーランド両国籍を持つ身でも、居場所を得るのが難しそうだからだ。

\*

以上のほか、エヴェレスト(8848m)にも二つの登山隊が挑んだ。アレハンドロ・チコン隊長のスペイン隊12人は、冬季無酸素登頂を狙って3回目の挑戦。アマ・ダブラム(6812m)に登ってからBCに入り、自力でアイスフォールを突破してウェスタン・クウム(6400m)に出たが、ローツェ・フェースでは落石と雪崩に悩まされ、結局、脱落者が出たことで戦力もダウンし、イエローバンド(7600m)手前で断念した。ドイツの単独行着ヨースト・コブッシュは、アイスフォール通過を敬遠して、ロー・ラから西稜を目指した。しかし、ロー・ラへの安全なルートを求めて何度も往復する羽目になり、西稜肩の7300mで断念した。



ブロード・ピークでのウルブコ。8000m峰登山から身を引くというのは、はたして本音なのか？(本人提供)



新連載 ～創立60周年に向けて～ (22)

# 『日山協と私』

埼玉県山岳・SC協会名誉会長  
田中文男

## 石塚彰氏を想う

毎年、春の訪れと共に明石から海の幸が届いておりました。送り主は、元日本山岳協会副会長の石塚彰さん。この方は、関西登高会々員で関西登山界の重鎮でした。でも、ここ数年届かなくなったなあと思っていたら御他界との報せ。体調を崩されているということは、伺っていたが、ショックでした。何しろ一番厳しい時代の「日山協」の事を良くご存じの方だったからです。

もう、ずっとずっと昔のことですが、私が新米の日山協常務理事で遭難対策委員長だった頃、全国理事会、臨時理事会、評議員会、総会など大きな会議が年に4回ほどありました。その都度、私は登校拒否ならぬ出席拒否したいような暗い気持ちになりました。でも一回も欠席したことはありませんでしたが、いつも足の重い感じで出席しておりました。何故なら当時の執行部は関東中心の方々ばかりで、そのため何かというと西日本の方々から厳しい質問や意見が飛び出し、時には大人の対応とは思えないような対立さえ発生したことがありました。考えてみると、出席者の旅費さえ満足に払って貰えず、「中央は何やっているんだよ!」という思いがあっても当然のような気がしました。気の弱い私など、唯々驚くばかりの雰囲気でした。幸い私の担当は無事でしたが、それでも無理やり私を遭難対策委員長に押し込んだ酒井堅至常務理事を恨んで文句を言ったことがありました。遭対には農水省の課長だったKさん、大学講師のNさん、都岳連の猛者の方々など沢山の人材がいました。その中から「あんたなら出来ると思ったから推薦したんだ。」と云われると、やむを得ません。サボる訳にはいきませんでした。「大丈夫だよ、田中君上手にやってるじゃない。」と酒井さんは、いつもそうおっしゃって下さったまま。

そんな時、石塚氏の方から声をかけて頂きました。「悩むことはないよ。関西の人だって人間。山ヤさんです。口は悪くても気持ちはいい人ばかりだから」と。更に「文男君は経営者でしょ。今度は財務も担当するんだって? 応援するから立て直してよ。このままだったら日山協は倒産するよ。」と励ましてくれました。

その約束の全てが果たされたとは思いませんが(失



2019年夏、小笠原父島の最高峰・中央山

礼)、当時の会長だった今井田研二郎氏が、沢山の使途不明金を発生させ、不信任を受けて退陣。そこでも大きな混乱が起きました。使途不明金の穴埋めをしなければならなくなりました。もはや遭対だか、財政だか判らない中で、資金のことを考え続けました。

気が付くと後日、日山協会長まで引き受けるほど深入りしてしまいました。

「できるよ文男君。あんたはピンチに強いから」と石塚さん。おだてると豚でも空を飛びます。

「明石名物を送ったから。一杯飲んでいい知恵を出して」と、またもごまかされてしまいました。

正直、大きな問題を次々と抱え込んだ当時の日山協ですが、(後日、ゆっくり書かせて頂きます。)周囲の方々に助けられ、何回ものピンチを乗り切ることができました。日山協の仲間で、唯一「文男君」と呼んで下さった石塚さんと本当はもっとも思い出を語り、グチを言い「それでも良い時代を過ごせたね。」と笑っていただきたかったのですが、御他界の報せ。本当に淋しい。一度お墓参りをさせてください。なるべく高くて素敵な花を持参しますから。その時、鎌田久氏、斎藤一男氏の会長就任などについても一度当時の思い出を語らせて下さい。

心からご冥福をお祈り申し上げます。でも、さよならは言いませんよ。文男君は。

知られざるバルカン半島の山岳国をトレッキングで巡る山旅

### アルバニア&北マケドニア最高峰登頂と 欧州最後の秘境アルバニア・アルプス 10日間

発着地 東京 旅行代金 412,000円～426,000円

出発日 6/16(火)・6/30(火)・9/8(火)・9/22(火)

※燃油サーチャージ(2020年3月1日現在:21,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

山旅専用フリーコール ☎0120-938-290

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## UIAA MedCom meeting 報告

会場：NOI TechPark, Hypatiastrasse 2, Bolzano, Seminar Room 3, Main Building "Hauptgebäude" A1, floor -1

期日：11月7日(木)～8日(金)

2019年11月7日、8日イタリア、BolzanoのNOI TechParkでUIAA MedComミーティングが開催された。Full Memberの増山茂JMSCA元医科学委員長が諸事情のため欠席し、Corresponding Memberとして参加するためにBolzanoを訪れることにしていた筆者が急きよFull Member代理として出席した。以下、MedComミーティングで話し合われた内容を記載する。

### 1. キリマンジャロSAR (Search and Rescue) の計画中止

2018年UIAA MedCom meetingでGerald Dubowitzの提示したキリマンジャロSAR (Search and Rescue)の計画が現時点では中止となった。キリマンジャロのポーターの教育とフォローは重要であるにもかかわらず実現できなかったことに、今回の参加者全員が落胆の意を示した。

### 2. ADVICE AND RECCOMENDATION の重要性の確認

MedCom委員長のUrs Hefti (スイス)がADVICE AND RECCOMENDATION (UIAA MedComの作成した登山医学に関する説明文集。多くは和訳されており、日本語で閲覧することができるが、まだ和訳されていないものもある。<https://www.theuiaa.org/mountain-medicine/medical-advice/>)を発表することにMedComの重要性があることを強調した。

Urs Heftiによれば、糖尿病に関するADVICE AND RECCOMENDATIONを全世界に配布する必要がある。また、ADVICE AND RECCOMENDATIONが医師向けに書かれているため、クライマーにもわかるように、医師用と一般大衆用の2つのレベルに書き分けること、さらにはソーシャルメディア向けにも分かりやすく書き直すことになった。加えて、ビデオ学習やオンライン研修のマニュアルを作成することが提案され、将来的には強力な収入源となることが期待された。また、それぞれの論文を「ポケットカード」と呼ばれる1ページにまとめることも提案された。

### 3. ADVICE AND RECCOMENDATION の一般的な改訂、新しい計画

英語以外の言語に翻訳することがもっとたくさんの人々に伝えるために必要であるとの意見が出た。副委員長であるThomas Küpper (ドイツ)が翻訳グループをまとめることになった。ちなみに上述の通り、その多くは和訳されており、日本語で閲覧することができる



が、まだ和訳されていないものもある。今後、すべてのADVICE AND RECCOMENDATIONを和訳する必要がある。また中には日本語が理解しにくいものもあり、書き直す必要もあるかと考えられる(個人的見解で恐縮ですが、筆者の訳したものは文章が拙劣です)。

新しい計画としては、トレッキングや遠征期間中の歯科救急、クライマーのためのマラリア予防、高山病の予防などが挙げられる。

### 4. 職業に関するMedComの仕事

「山岳救助における職業上の健康と安全性」、「英国山岳ガイドの職業上の健康問題」、「IFMGA/UIAGM山岳ガイドにおけるストレス、対処、回復力、自然とのつながり」などに関する発表が行われた。主に山岳を仕事とする人々の健康問題を扱っており、産業医科大学出身の筆者も山岳救助隊員、山岳ガイド、山小屋従事者の健康問題についての調査を今後行う必要があると感じた次第である。

### 5. EURAC ResearchとUIAA MedComのジョイントシンポジウム

EURAC Researchはヨーロッパの未来統合型研究所で、Bolzano近郊にterraExcubeという複雑環境ミュレーション・ラボを所有している。TerraXcubeでは救急医学、高所医学、産業医学、複雑環境のシミュレーション、医療機器の試験、厳しい環境下での教育とトレーニングを行うことが可能で、低酸素の基礎研究も計画されている。また産業界が間接的に資金を融資する医学研究を行うこともできるし、産業界が製品を試験するためにterraXcubeを使用することもできる。

ヒマラヤなどの高所環境下での野外研究は、被検者人数が少なく、気温、風や湿度などの外的交絡因子が刻々と変化し、再現性を維持することを困難にしている。TerraXcubeはそれら野外研究の限界を破り、必要な再現性のあるデータを多数得ることのできる、利便性のある施設である。今回、人工的高所順応の効果を、異なった視点から論じ、議論を行った。パネルディスカッション形式で行われ、科学者としてMartin Burtscher、遠征運営担当者としてLukas Furtenbach、クライマーとしてSimone Moro、法曹界からAxel Bisignano、UIAA代表としてDavid Hillebrandtが発表を行った。議題は

「クライマーの高所順応を導くための低酸素への事前暴露は倫理的、法的に有効なのか？」である。筆者個人としては、忙しい日本人が安全に高所トレッキングや遠征をおこなうために、高所順応を導くための低酸素への事前暴露は必須と考えるが、今後もこの議論は続くと思われる。

## 6. UIAAからの医学的依頼

David Hillebrandt (英国、前委員長) が高所での酸素供給システムの故障についての話がされ、ネパールにおける酸素供給システムの規則をどのように変えればよいか提案を求められた。UIAA 安全委員会に質問状を送ることを Urs Hefti が提案し、David Hillebrandt と Carol Kahoun (UIAA 事務局) が UIAA 安全委員会に質問状を送ることになった。

火山の危険性について ADVICE AND RECOMMENDATION に載せるよう Urs Hefti がエクアドルから依頼された。Thomas Küpper が観光旅行と自然ガイドに関する最近の論文 (Heggie 2009 Volcanic Hazards ASU, [https://www.researchgate.net/publication/26805894\\_Geotourism\\_and\\_Volcanoes\\_Health\\_Hazards\\_Facing\\_Tourists\\_at\\_Volcanic\\_and\\_Geothermal\\_Destinations](https://www.researchgate.net/publication/26805894_Geotourism_and_Volcanoes_Health_Hazards_Facing_Tourists_at_Volcanic_and_Geothermal_Destinations)) を送り、Carol Kahoun が議事録と一緒に回覧した。

エベレストで大勢が列をつくることに関して David Hillebrandt が意見を求められた。MedCom メンバーはそれは MedCom の話題ではないという意見に同意した。エベレストの 8000m を超える高所での渋滞は確かに問題であるが、それはエベレスト登山を運営するものの仕事であり、医師が意見を述べるものではない。

カトマンズに最近開設された ERA クリニックと関係のある、ゴーキョ村に開設された私営のメディカル・クリニックについて、IPGG (Institute Pierre-Gilles De Gennes か、Instituto Paulista de Geriatria e Gerontologia か?) からの手紙を David Hillebrandt が受け取った。問題は医師たちが高所や旅行医学の経験を有していないこと、ディンボチェやロブチェにも同様のクリニックを開設する計画で、それらはペリチェの HRA ポストと直接の競争相手となること、企業利益獲得戦略がヘリコプター搬出によって得られる利益に基づいていることである。

ネパールでは病院を開院するための公式の規則がない。スイスの保険会社は医師にフライトが必要か否か尋ねているとのこと。ネパールにはそれに関する情報が少ないことが問題である。ネパールに情報を提供するために UIAA が意見を述べることを Urs Hefti が提案した。ネパールの代表に意見を聞かなくてはならない。法と事実

に基づいて現存する ADVICE AND RECOMMENDATION を参考にしてもらいべきであり、そのためにはネパール語への翻訳が必要である。Thomas Küpper が ADVICE AND RECOMMENDATION をネパールに広めることになった。保険会社が興味を持っているので彼らと協力するのが良策である。

## 7. MedComの財政

MedCom の財政寄付の土台作りと資金調達の機会および財政支援してくれるパートナーを探すことに関して Urs Hefti が UIAA に要請を行った。今回の会議で MedCom メンバーは全員財政支援の機会を探し出し、UIAA 事務局に報告することが求められることになった。しかし我々医師にとって特定の団体の利益のために研究を行うことは倫理に反することであり、スポンサーを得ることは両刃の剣であることも事実であろう。

## 8. 2020年～2021年のMedCom会議

様々な意見が出たが、「上小牧の意見はどうか？」と問われ「2020年、スイス、Interlaken で ISMM 学術集会が開催されるので、それに付随して行われると我々にとっては都合がよい。2021年は今まで意見が出た南アフリカでも、南米でも良いですよ。」と答えた。その結果、2020年、スイス、Interlaken、2021年南アフリカの案が満場一致で承認された。しかし、後から考えてみれば、日本での開催案を出せば良かった。日本はもっと世界にアピールすべきである。

## 9. TerraXcube見学

筆者は時間がなくて TerraXcube 見学に参加できなかった。低酸素だけでなく、温度変化や強風環境も人工的に作り出せる施設であると認識している。日本にもそのような施設が欲しいものである。

以上が、2019年度の UIAA MedCom ミーティングの議事概要である。筆者は Corresponding Member として聴講目的の参加の予定であったが、増山元委員長が直前に参加をキャンセルしたため、突然 Full Member 代理となった。会議で発表すべき講演内容を持ち合わせておらず、聴講に徹した。来年からは Full Member として参加するため、登山医学に関する発表を行う必要がある。また ADVICE AND RECOMMENDATION のうちまだ和訳されていない項目を、JMCSA 医科学委員で手分けして和訳し、JMCSA に周知する必要がある。繰り返しとなるが、JMCSA 会員は一度 ADVICE AND RECOMMENDATION <https://www.theuiaa.org/mountain-medicine/medical-advice/> をご覧になってみてはいかがだろうか。

(医科学委員会常任委員 上小牧憲寛)

本年度の冬レスキュー講習会は1月24日（金）～26日（日）に群馬県みなかみ町土合山の家をベースに開催された。今年も3クラスに分かれての講習会であったが、暖冬のため土合近辺には積雪が30cmしかなく各クラスとも工夫が必要であった。今回は医科学委員会から中島委員長、上小牧常任委員にも出席いただき、低体温症や凍傷について講義いただいた。以下報告はクラス1については服巻主任講師、クラス2, 3については受講者からそれぞれ感想をいただいた。

## 【クラス1】について 主任講師 服巻辰則

クラス1は、専門委員の服巻辰則、日本雪崩ネットワーク理事の出川あずさの講師2名に加えてスタッフ1名で担当し、受講生15名を迎えて開催しました。

このクラスは、雪崩救助を主目的とせず、雪崩に会わないための講習となっています。講習内容は、雪崩の現象、雪崩地形、降雪と積雪の理解、雪山での雪崩地形を理解した上での行動とグループマネジメント、雪崩ハザードの考え方、初歩の雪崩搜索救助技術などを体系的に学びました。

初日は机上を中心に実施し、二日目は谷川岳の天神尾根まで上がり、行動マネジメント、積雪観察、雪崩搜索救助に関する実習を行いました。最終日は、雪崩搜索救助についてグループでの搜索救助について実習を重ねました。

統計では、雪崩ビーコン所持率は、スノーボーダー、山スキー、登山者の順に低くなるデータがありますが、今回の受講生は滑走者（山スキー、スノーボード）の方より登山者がやや多く、登山者の雪崩に対する意識の改善が認められました。

## 【クラス2】について 田中光彦（東京都）

山岳レスキュー講習会を受講し、講師の方たちのレベ



Vコンベアによる掘り出し



谷川岳をバックに講習風景

ルの高さ、講習内容の完成度の高さを感じました。講師については、エベレストの登頂経験がある方や、冬季クライミングをする方など、経験値が豊富で、また、指導員資格を取得した立場や、医師の立場からという裏打ちされた知識と技術もあり、一言一言に強い説得力を感じました。

講習内容については、クラス1から3まで、受講者のレベルに応じた講習内容としており、クラス2については基本的な雪崩対策や低体温、凍傷についての講義、徹底したビーコンサーチ技術の取得やロープワーク、スノーマウントの構築など、最低限のクライシスマネジメントに特化していました。そうすることで、徹底してセルフレスキューの技術・知識を習得できるよう工夫が成されており、とても充実した講習内容となりました。

受講者については、登山者やバックカントリースキーヤー、レスキューに携わる方など多岐にわたり、それぞれの知見を共有することができ、大変刺激を受け、有意義なものでした。そして、お互い技量がわからない中で、3日間講習を共にすることで、実災害においても求められる、顔の知らない者どおしのチームワークの構築方法の勉強にもなっており、大変有意義なものでした。

ここで学んだことを、雪山に携わる人たちへ伝承し、JMSCAの目的である「安全な登山」への一助になれば幸いです。ありがとうございました。

## 【クラス3】について 佐藤利明（山形県）

### 1. 講習内容について

#### (1) 効果的と感じた講義

#### ア) 雪崩ビーコン搜索でのファインサーチ

クロスサーチでの最小値地点の出し方が勉強になっ

た。

これまで、クロスサーチではビーコンを慎重にゆっくり動かすと教わっていたが、最小値に見当をついた後は素早く動かしてクロスサーチを実施することで、より短時間でのサーチができることを知った。

「掘り出しに時間を要するので、なるべく早くサーチする」という原理で考える必要性を実感した。

#### イ) プラトール構築、ブロック・雪濠(たこつぼ)

プラトールについては、今まで何となく作成していたが、プラトールの原理と重要性を学ぶことができた。

現場での待機、ビバークの際はスノーマウントを教わっていたが、要救放置の観点から、たこつぼやブロックを積んだ方が早いことが分かった。

#### ウ) ピグリグ

知識として知っていたが、実践できたことで勉強になった。自分たちの隊では使っていない技術であり、参考となった。

エ) これまで何となく教わり指導していた内容も、要救の観点等違う視点から見直し、本当に安全なのか迅速なのかを考えなくてはならないと痛感した。知識の更新をすることができた。

#### (2) 3日目のシュミレーション

一番勉強になった。2日目まで習ったことの総まとめができた。

リーダーをすることができ、反省点が多く、勉強になった。可能であれば、皆がリーダーを経験すると本人の勉強になるのではと感じた。頭で分かっている、実際動くとうまくできないもので、反省することが多かった。反復練習と自己研鑽が必要であると感じた。

#### (3) 他研修との違い

これまでに、国立登山研修所での山岳救助研修や警察庁での研修を受けたが、今回の研修は、自己の安全確保等「安全管理」の面では、ゆるい感じを受けた。

公的救助機関の組織レスキューと登山者としてのレスキューの違いなのだろうと思った。

#### 2. 講師について

角田先生、宮下先生、安藤先生ともに熱心に教えていただき、とても分かり易かったし、細かい部分も教えていただいた。

コース3は人数が少なかったため、その分多くを教えていただけたし、深く学べたと思う。集中して勉強でき、過ぎてみればあつという間であった。先生方の熱意がとても嬉しかったです。感謝の気持ちでいっぱいです。

#### 3. その他改善事項等

概ね、講義内容、時間等良好だったと思う。細かい部分になるが、事前に、講師同士の役割分担や連携を確認しておく、もっと講義がスムーズに進むと感じた。

## 鳥取県大山 令和元年度

# 冰雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

日時：令和2年2月15日(土)～16日(日)

鳥取県大山において冰雪技術研修会および主任検定員養成講習会、上級養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修10名、A級主任検定2名、上級指導員養成講習4名、講師3名、鳥取県スタッフ3名の計22名での開催となった。

新型コロナウイルスが流行し始め開催も危ぶまれ、また、今年の大山の積雪は例年よりかなり少ない状況でしたが、数日前の寒波で残っていた雪があり、時折雨の降る中、屋内でも実施し、充実した講習が行われたものと思います。

今年は、山口県、熊本県からも参加者がおり今後の参加の広がりも期待できるようです。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)



## 感想

受講生

冰雪技術研修に参加して 熊本県 橋本美和

今年の正月に八ヶ岳に行って帰ってきて、ソロでは自信なくて登れなかった赤岳に登りたい、アイスキャンディを眺めながら、アイスクライミングに次回はチャレ

ンジしたいなとぼんやり考えていたら、所属する山岳会から雪山を本格的にやりたいなら、こんな研修ありますよと軽い感じで案内があり、研修内容をよく把握もしないまま参加申し込みをした。いざ、研修当日を迎えると机上講習の段階で、内容、出てくる単語の意味さえ分からない。クライミングをはじめたと言っても、ギアでさえ、自分では最低限しか持たず、何もかも頼りっぱなしの連れて行ってもらうスタイル。そんな私が、場違いともいえる今回の研修に紛れ込んでしまった。机上講習がはじまってすぐ、正直帰りたいと思った。さっぱりわからないまま、スタンディングアックスビレイを外にでてやることに……。ロープワークもままならない、一つ一つの動作を何のためにやっているのかわからない、だから順番も繋がらない。繰り返し教えていただき、同じ班の方にフォローしてもらいながら、終了時間にやっと流れが掴めた。実技講習では二日間で、スタンディングアックスビレイ、滑落停止、耐風姿勢を繰り返し行い、文献だけの浅い理解だったがしっかり学ぶことができ、今後の山行への自信につながったと思う。研修中に講師の堤先生からは、ピッケルの持ち方、移動中のマナー、ハーネスの装着についてまで、細部に渡り指導を受けた。今回またカラビナー一つでも、用途によって形状が異なり、使い分けが必要なことなど学べた。

場違いな受講生の私でしたが、実技講習の時に些細なことでも出来ていたことがあると褒めていただきとても嬉しかった。

懇親会も楽しく過ごさせていただきました。講師の先生、スタッフの方々、参加された皆様、ありがとうございました。また、次回参加させていただく時は、今回より成長した私でありたいと思います。よろしくお願いします。

## 大山氷雪技術研修会 山口県 原田ひろみ

以前より参加したいと思っていた氷雪技術研修会。この度参加させていただきました。



初日の午前は室内で講義。その後、場所を変え屋外で実技指導を受けました。今年は記録的な積雪の少なさで心配でしたが、雪の上で実技を行うことができ、ほっとしました。一日目は主にSABの練習。頭ではわかっているつもりでもスムーズにできないところがあり、反復練習が必要だと感じました。

二日目は降雨のため屋内での講習が多くなりました。それでも雨の止み間には外に出て、初期制動などの実技を実施していただきました。指導では一人一人見てくださり、できていない時にはどこが違っているか、確実にできないとどうなってしまうのか、お話がありました。明確な説明に納得の思いです。

懇親会では情報交換や、日頃聞けないお話もうかがうことができ、こちらも大変楽しい時間でした。

研修会は終始緊張感がありましたが、時折和やかさも垣間見え、充実した二日間となりました。安全対策を怠らないという講師の方の言葉を忘れずに、これからも臨んでいきたいと思います。

講師の皆様、スタッフの皆様、参加者の皆様、ありがとうございました。

### 新型コロナウイルスに関わる対応について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、弊協会主催の競技大会や事業の延期・中止等が相次ぎ、関係する皆様には、大変なご迷惑をおかけしております。弊協会としましても早目早目に対処していく所存ですが、日々状況が変わるため、なかなか思うようにいかないのが実情です。

連絡・周知等につきましては、その都度、HP等に掲出していきますので、ご覧頂ければ幸いです。厚生労働省において「新型コロナウイルスの集団感染を防ぐために」を取りまとめているので、御参考までに周知をさせていただきます。  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601720.pdf>)

日時 令和2年2月13日(木)  
場所 Japan Sport Olympic Square  
3階10号会議室

出席者 八木原会長、亀山、平山各副会長、  
尾形専務理事、小野寺、水島、合田各常  
務理事、相良、蛭田、町田、村岡、村上、  
山口、前田、六角、唐木、安藤、古賀、山本、  
古林各理事、中島、古屋各監事

欠席者 丸副会長 水村理事(途中出席)、  
小日向理事(ＩＦ公務)  
理事会に先立ち、日本スポーツ仲裁機構  
が受託しているコンプライアンス強化事業  
の一環として「役員向けスポーツ団体ガバ  
ナンスコード説明会」が渡邊健太郎弁護士  
によって行われた。

## 1. 開会

会長挨拶の後、会議成立状況が報告され、  
理事23名中20名出席、監事2名同席で  
会議成立。続いて議長を選出し、議事録  
署名人を指定して議事に入った。

## 2. 議題

- (1) 議案第1号 議事録の承認について
  - ① 第9回理事会議事録の承認について(事前送付済)
  - ② 臨時理事会議事録の承認について(事前送付済)  
異議なく承認された。(臨時理事会の招集について、監事から意見があった。)
  - (2) 議案第2号 規程の改定について
    - ① 組織管理運営規程  
異議なく承認された。
    - ② アスリートパスウェイ謝金について  
異議なく承認された。
  - (3) 議案第3号 令和2(2020)年度事業計画案について
  - (4) 議案第4号 令和2(2020)年度予算案について  
令和2年度事業計画(案)とそれに伴う収支予算(案)について説明があった。S C部の予算については、収支相償になるよう調整すること。  
種々出された意見を踏まえ、議案第3号、4号は継続審議として次回理事会で承認を諮ることにした。
  - (5) 議案第5号 全国理事長会議の運営について  
各道府県岳連(協会)からの質問事項について回答担当者を決めた。
  - (6) 議案第6号 指導員の認定について  
以下の認定承認が諮られ、異議なく承認された。
    - ア) 指導者認定申請
      - ① 山岳コーチ1(北海道山岳連盟)  
渡辺誠、塚本圭一、今野聖二、門馬紫保、内山幸雄、中村博輝、河田雅之、宇田直子、宮嶋和彦、宇佐美裕彰、柴田幸博、齋藤美里、酒井雅義
      - ② 山岳コーチ1(福島県山岳連盟)  
柏村 貴子
      - ③ 山岳コーチ1(宮城県山岳連盟)  
芳賀幸志、庄司忠信、大山千春、菊地栄美子

- ④ 山岳コーチ1(東京都山岳連盟)  
篠塚洋康、佐藤里香、中村正之、飯野繁美、石村操、石村幸男、染谷勤、森山淳一
- (7) 議案7号 アイスクライミングの選手選考について  
登山部で検討した後、再提議することになった。

## 3. 報告

- (1) 報告第1号 1月度月次報告について
- (2) 報告第2号 世界選手権検証経過報告について
- (3) 報告第3号 C A S 仲裁上訴の経緯・現状について
- (4) 報告第4号 創立60周年記念事業について(ネパール・トレッキング計画)
- (5) 報告第5号 後援名義承認について
  - ① 大阪チャレンジ登山②日本山岳写真協会展③日本山岳ガイド協会「百万人の山と自然」以上3件の承認が報告された。

## 4. 専門委員会報告(抄録)

### 4-1 登山医科学委員会

1月18日(土) 場所: アルパインツアーサービス(株)説明会場 出席者: 10名 オブザーバー: 2名

- ア) 夏山リーダー講習会の支援について
  - ① 「セルフレスキュー」の実技講習の内容について討議
  - ② 講習項目「登山の運動生理学とトレーニング」の講義は医科学委員会担当
  - ③ 講習項目「セルフレスキュー」と「登山の運動生理学とトレーニング」の講師は医科学委員会委員あるいは日本登山医学会認定山岳医が担当、「講師のための実技マニュアル」が完成後講師講習会を開催する。
- イ) 「高山病と関連疾患の診療ガイドライン」の各都道府県岳連(協会)配布
- ウ) UIAA Medical Committee参加報告(上小牧委員)  
ADVICE AND RECCOMENDATIONは多くは和訳されているが、和訳されていない部分について今後は和訳する方針としたい。
- エ) 2020年度事業計画案  
従来の事業を継続、追加事業
  - ① 夏山リーダー講習会の医科学分野支援
  - ② 無雪期・積雪期セルフレスキュー講習会の医科学分野支援
- オ) セルフレスキューという用語は「コンパニオンレスキュー」のほうが適切ではないかという指摘があった。UIAAのTextbookではどうなっているのか確認。

### 4-2 S C医科学委員会

1月19日(日) 会場: 明大リパティータワー 1165号教室 出席者: 10名

- ア) 今後の競技会医務担当割り当て  
(J M S C A 主催大会医務予定)(大森委員)
- イ) 各業務担当委員報告
  - (1) 救護担当(中島委員)
    - ① 救護業務における縫合の適応について  
ボルダリングではほぼ不能、コンバインドでは必要になることもありうるが、J M S C A 主催大会では行わない。オリピックではこの限りではない
    - ② 指のテーピングについて  
・現在のマニュアルによる指腹部保護テーピングは競技中にテープの剥脱が生じることあり。⇒テーピングによる保護の限界と判断する。
  - (2) 強化連携担当(六角委員)

- ① メディカルチェック  
・今年度J I S Sが混雑。J I S Sの医師が施行する、S Cとしての特殊項目は依頼する。
- ② B M Iについて  
今年度計測をリードジャパンカップ、リードユース日本選手権で行なう
- ウ) テストイベントについて  
競技終了後、医務室にて外傷処置対応についてのレクチャーを行なう予定。
- エ) その他  
ジャパンツアーについて基本的にS C医科学委員会からの派遣が原則となる。
- 4-3 S C委員長、副委員長会議  
1月9日(木) J S O S 会議室
- ア) 倫理研修  
A級セッター・審判会議にて実施  
セッター会議: 3/1、審判会議: 3/14  
その他のセッター・審判更新研修にて実施
- イ) A D 研修  
審判・セッターでは不要? 指導者では必要(現状は実施無し) ※倫理研修含めブロック大会及び研修で実施の方向
- ウ) 2020年度大会スケジュールについて  
エ) ロシアのW A D A問題について  
2020年世界ユース選手権は予定通り開催  
2021年の世界選手権は怪しい(I F S Cとして予定どおり開催を希望している)
- オ) 2020年シーズンユース日本代表選考  
東京2020、パリ2024の複合種目変更の可能性はあるが、3種目で選考する方向
- カ) J O C ジュニア ユースDの参画  
・大会運営としては、ユースCのみで実施が望ましい
- ・K-Cupの存在(アジア諸国から日本の不出場が疑問視されているが、I F S Cのフォーマットとはずれている)
- ・ユースDのケガは少ない。ユースCからユースBの時期が一番ケガし易い。
- ・保護者含め医科学講習会を実施出来れば望ましい
- ・ユースD以下の普及・振興は現状民間に任せ方がいいのでは(責任の所在や勝利至上主義) ユースDを派遣する時の体制(スタッフや費用含め) → スポーツクライミングの明るい未来のためにもう少し議論。2020年度はユースCで実施  
都道府県からの推薦枠を設ける場合、予選会実施の観点から早めに結論必要
- キ) H P の更新  
次回の常務理事会で提案
- ク) 国際委員会より  
・国際セッター・ジャッジの養成 → 技術委員会との連携(特にジャッジ)
- ・フランスチームの招聘(選手・スタッフ)  
A C C の役員派遣(水村理事)
- 4-3 遭対委員会  
1月26日(日) 土合山の家 出席16名  
ア) 山岳レスキュー講習会(積雪期)の報告および反省  
申込方法をメールでの申込みに変更した。結果として時間による拘束なくタイムリーに対応できた。
- 【クラス1】  
受講者のレベルが低かった。次回の募集では更なる明確化を検討。積雪30cmのため、2日目の講習はロープウェイで天神尾根に移動して講習を行った。出来る人と出来ない人の差が大きかった。ファイ

ンサーチからマイクロサーチが出来ない。  
**【クラス2】**  
 積雪技術講習会初参加が7人いたため、初参加者をAチーム、それ以外をBチームの2つに分けて講習を行った。最終日は両チーム共に1人埋没者の掘り出しから梱包、搬送、スノーマウントでヘリコプターの到着を待機するまでの一連の動作を行ったが、習熟度に差。梱包方法が研修会で決定した方法と違っていた。講師スタッフは研修会で決定した通りを行うこと。

**【クラス3】**  
 参加者の経験値少なかったため、シミュレーションが上手く出来なかった。講習に適切な人数について次回見直し。

- イ) 2020年2月～3月行事日程  
 (1) AVSAR 上級講習会  
 2020年2月14日(金)～16日(日)  
 (2) 夏山リーダー講習会  
 2020年3月14日(土)、15日(日)  
 (3) 遭難対策委員会総会  
 2020年3月28日(土) 13時開始。  
 ウ) 2020年度遭難対策常任委員会議の開催について  
 2020年4月から第3週水曜日開催に変更。4月は15日開催。  
 エ) 大阪府岳連で行っている具体例をベースに関東地区でも行うか検討。

- 4-5 共済委員会**  
 1月29日(水) IMSCA事務局 出席者7名  
 ア) 令和2年度事業計画及び収支予算について事業計画(案)、収支予算(案)とも提案通り承認。「そうよ そうなの 遭難よ」のオリジナル楽曲使用延長費用について令和2年度上期の拡散状況を見て、必要なら補正予算を組んで対応  
 イ) 令和元年度山岳共済会の加入状況について2020年1月15日現在の加入者総数52,795名(団体17,702名、個人35,093名)前年比で1,826名減。前年度に比べて激減と云える。各岳連の組織衰退が伺われる。  
 ウ) キャラクターの商標登録完了についてマスコットキャラクターの商標登録が、令和2年1月7日付で登録された。(登録第6212760号)商品及び役務の区分は、第18類(ザック、袋、ストック等)、第25類(ヤッケ、手袋、靴等)、第36類(生命保険等に関するもの)愛称について協議。  
 エ) 「そうよ そうなの 遭難よ!」の拡散状況について

- ① ADMATRIX DSP レポート  
 デバイスでは P C, S P が 0.11 ~ 0.10% 配信した結果、30代 ~ 50代、特に50代に反応が良かったことが分かった。  
 ② Yama haku で紹介。  
 ③ 『山と渓谷』2月号の「やまびこ」の欄で紹介  
 オ) 令和2年度会員証について  
 カ) その他  
 ① 『山と渓谷』2月号の「山岳保険のハナシ」コーナーで、いくら広告出稿が無いからと云って J M S C A の山岳保険が無視されるのはおかしい。  
 ② 国内旅行傷害包括保険の対象を加盟団体との共催事業まで含めることについて協議。  
 ③ 個人賠償包括保険の支払案件が最終的に350万円ほどになる予想。保険料の見直しが迫られる。

- 4-6 登山普及委員会**  
 1月10日(金) JMCSA事務局 出席者5名  
 ア) 「登山普及情報交換会」について  
 高校山岳部の卒業生がリーダーとして組織に属し登山を続けていく環境が作れるといい。  
 安全登山の普及は「夏山リーダー研修」に任せる。  
 指導委員会の人を高校山岳部で顧問のいないところに派遣する。あるいは生涯学習センターのような公的学習の場に派遣をして安全登山の普及をはかる。などの意見が出た。

- イ) 来年度予算について  
 スカイクを使った会議を導入する。  
**4-7 指導委員会**  
 2月3日(月) 出席12名、委任1名  
 ア) 検討事項

- ① S C コーチ認定申請書の件について  
 新しいフォーマット案と周知について申請書表紙に分かり易く→受講者人数、合格者人数、保留人数(不合格者)を記入する。得点表に、可否の欄を作成。以上の案をふまえ、6月の全国指導委員長会議で、全国の指導委員長に周知する。  
 ② 夏山リーダー講師養成講習会について  
 a. 夏山リーダー講師養成講習会(参加費無料)3/14~15、神奈川県立山岳スポーツセンター  
 b. 夏山リーダー資格認定ピンバッジ  
 c. 夏山リーダー資格認定ワッペン  
 ③ 富士山氷雪技術研修会について  
 イ) その他  
 ① 義務研修について確認

- 国体で、監督・スタッフをしただけでは、義務研修として認められない。(JSPO見解)  
 ② 夏山リーダーテキストについて  
 1,000円(税込み)で販売。本代が10,000円以上は送料無料。  
**5. 会務・役員派遣**(1月16日~2月10日)  
 (1) 日本スポーツ表彰式 1月17日(金)  
 於: パレスホテル東京「葵」丸副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事  
 (2) 山口県山岳・スポーツクライミング連盟70周年記念祝賀会 1月18日(土)  
 於: 宇部文化会館文化ホール3F 八木原会長  
 (3) 臨時理事会 1月21日(火)  
 於: JSOS3F Room10 八木原会長  
 (4) 第9回東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会国内競技団体協議会 1月21日(火) 於: 晴海トリトンスクエア Y棟 尾形専務理事  
 (5) 令和2年度外務省スポーツ外交推進事業説明会 1月22日(水) 於: JSOS 14階 尾形専務理事、小野寺常務理事  
 (6) レスキュー講習会 1月24日(金)~26日(日) 於: 土合山の家 町田理事  
 (7) 第10回自然保護指導員研修会 1月25日(土) 於: オリンピック記念青少年総合センター 松隈委員長  
 (8) 都岳連新春の集い 1月25日(土) 於: 東京グランドホテル 八木原会長、亀山・丸副会長  
 (9) 西尾レントール新春懇親会 1月28日(火) 於: ホテルニューオータニ 八木原会長、村岡理事  
 (10) 令和元年度 J O C / N F 国際フォーラム 1月30日(水) 於: JSOS 14F 尾形専務理事  
 (11) 協働チームによるコンサルテーション 1月30日(水) 於: 国立スポーツ科学センター 尾形専務理事、安井強化委員長  
 (12) 有明アリーナ完成披露式典 2月2日(日) 於: 有明アリーナ 八木原会長  
 (13) 日本山岳写真協会新年会 2月2日(日) 於: 上野精養軒 八木原会長  
 (14) 積雪期登山基礎講習会 2月7日(金)~9日(日) 於: 国立登山研修所 本郷指導常任委員  
 (15) A D ・倫理研修会 2月7日(金)

寄贈図書		
寄贈図書	小学館	「スポーツ びっくり図鑑」
	(株) ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.873
雑誌	Club alpino italiano	「Montagne360」febbraio 2020
	(株) 山と渓谷社	「山と渓谷」2019 No.1019
	(公財) 日本スポーツ協会	「JSPO スポーツニュース」「JSPO フェアプレイニュース」Vol.114
	国土緑化推進機構	「ぐりーん もあ」Vol.88
	健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.502
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第632号
	日本運動具新報社	スポーツ産業新報 第2279号、第2280号、第2281号
	埼玉県山岳・SC協会	「埼玉岳連」第67号
	日本武術太極拳連盟	武術太極拳
会報	(公社) 日本ネパール協会	2020年新年号 No.252
	ヤマハ発動機スポーツ振興財団	YMF インフォメーション
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.541
	東京野歩路会	「山嶺」Vol.97
	(公社) 日本山岳会	「山」2月号 No.897
	FEEC	「VERTEX」288
	日本防火・防災協会	「地域防災」No.30

超肌着力  
 想像をはるかに超える"保温力"  
 制した究極の肌着!!

於：A P 浜松町 山口理事  
 (16)宮原巍氏お別れの会 2月8日(土)  
 於：アルカディア市ヶ谷  
 八木原会長、尾形専務理事  
 (17)第15回BJC 2月8日(土)～9日(日)  
 於：駒沢オリンピック公園総合運動場屋  
 内球技場 八木原会長他  
 (18)第16回スポーツ仲裁シンポジウム  
 2月10日(月) 於：虎ノ門ヒルズフォー  
 ラム4ホールB 亀山副会長、尾形専務理  
 事、他

**JMSCA 60周年募金協力者ご芳名**  
 (2020年2月28日現在、敬称略)  
 10口：佐藤光由、2口：高橋時夫  
 (総額：380口 1,900,000円)

**一般財団法人 日本トレイルランニング協会**  
 〒141-0031  
 品川区西五反田6-3-23-205  
 ☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

**表紙のこぼ**

今月号の表紙写真は、シニオルチャー(6,887m)。この山を世界的に有名にしたのは英国のD.W.フレッシュフィールドであろう。1899年にカンチェンジュンガを一周し、その時の紀行が名著『Round Kangchenjunga』として著された。彼はその著書のなかで、シニオルチャーを「…これまでに見た最も美しい雪の山であり、おそらく世界で最も美しい雪の山であろう。…登山者にとってシニオルチャーは理想の雪山であり、至高の玉座である。」と記した。

1936年9月、P. バウアーの率いるドイツ隊によって初登頂された。  
 (写真撮影者 尾形好雄)

**編集後記**

花見の季節だが新型コロナウイルスの拡散が、社会生活、経済活動にまで影響が出始めている。本協会も不急不要の会議、競技大会、講習会など多岐わたり中止、延期判断を余儀なくさせられている。IT化により情報の一斉配信とSNS媒体で電話会議、TV会議など対面接触なく意思の疎通を図る手段を持てるようになった。オリ・パラ開催まで半年を切った、情報の精度と素早い発信が肝心か。一刻も早いワクチン開発を願う。

(広報担当 水島彰治)

**NPO法人 北丹沢山岳センター**  
 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ・北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ・陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ・道志村トレイルレース実行委員会  
 ・八重山トレイルレース実行委員会  
 ・東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 ・上野原秋山トレイルレース実行委員会  
 大会々長 杉本憲昭

**登山月報 第612号**  
 定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 令和2年3月15日  
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号  
 Japan Sport Olympic Square 807  
 公益社団法人  
 日本山岳・スポーツクライミング協会  
 電話 03-5843-1631  
 F A X 03-5843-1635

山岳雑誌

# 岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」

**4月号 発売中** 【特集】ソロキャンプで楽しむ登山  
 ★モンベルのウェブサイト 全国のモンベルストアや書店にて発売中!  
 毎月15日発売 価格880円(+税)

**年間購読がおすすすめです。**

購読割引 送料無料 Tシャツセット

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

2色から選べる!

「岳人」年間購読+岳人Tシャツセット

**期間限定 キャンペーン**

岳人の年間購読を【新規お申し込み】または【ご継続】いただくと、「岳人Tシャツ」クーポンをセットでお届け。  
 キャンペーン期間(お申し込み日)  
**2019年10/15(水)～2020年10/14(水)**  
(2019年12月号から2020年11月号までの年間購読開始が対象となります)

通常価格 12冊 10,560円(税込) → 年間購読 12冊+Tシャツ 9,680円(税込)  
11,616円(税込) 10,648円(税込)

※購読開始号に同封されているクーポンを全国のモンベルストア店頭でTシャツと交換させていただきます。ご来店いただけないお客さまには発送も可能です。

年間購読のお申し込みはこちらから!>>>  
<https://www.gakujin.jp/>

全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ  
 モンベルポスト  
 ☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797  
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

あなたを守る。  
あしたを作る。

三井住友海上

損害保険と聞いて、  
なにを思い浮かべますか？

ケガ、災害、事故…日々の中で起こりうるリスクをカバーする。それは私たち三井住友海上の重要な任務ですが、すべてではありません。たとえば同じ自動車保険でも、暮らしの変化や自動車の進化を見つめて改善を続けること、宇宙開発や再生医療など、まだ世界にない保険を新しく作ることで社会の前進をサポートすることも、とても大切な役割です。変わらない一日に寄り添い、より豊かな明日を実現したい。だから私たちは、守ることと作ること、その両方を探りながら前へ歩み続けます。

三井住友海上  
時空保険  
探査部  
Space-time Insurance  
Exploration Department

人類にとっての  
損害保険の  
必要性を調査。

時空を感じる  
ゲート。

社員証を  
かざせば  
タイムワープ。

立ちどめを乗り越えよう。

MS&AD

三井住友海上



# 登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院費用
- 傷害通院費用
- 傷害手術費用
- 個人賠償責任

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。  
<https://sangakukyousai.com>



WEBからもお申込みいただけます